



発行 研究推進委員会

2009. 4. 30

< 気楽に情報発信！ >

新学年が始まって早1ヶ月。あれよあれよという間に時間がたってしまった感じでしょうね。

新しい子ども達とのルール作りは、そろそろ軌道に乗ってきましたか？ 尾形は、いつもながら、その日暮らしの日々にあたふたする毎日でした。

さて、今年も昨年に引き続き「児童生徒の「活用力」向上モデル事業」の指定研究にあたっています。< 指定研究 >という言葉を知ると、いつも決まって「オレはもっと自分でやりたい研究があるのに、余計なお世話だな。時間がもったいない」と思います。それで、なかなかエンジンがかかりません。でも、愚痴を言っているだけでは何も始まらないし、そもそももう引き受けてしまっているのですから先を考えなければいけません。

そんなわけで、頭と心を切り替えて、このテーマに沿った研究をしていこうと思います。せっかくだから、嫌々やるのではなく、たのしんで研究ができればいいなと思います。

そのためには、

「こんな指定でもあたらないかぎり、〇〇について真剣に考えるのに時間を使うことはないよなあ」というような「〇〇」をいっぱい発見できればいいですね。

忙しいみなさんの一助となればと思い、研究推進委員会から、この「研究通信」を発行します。少しでも参考になるだろうと思うことを小出しにしていきます。感想などありましたら、推進委員までお伝え下さい。

ノートとは

今年度は、「書くところを中心にした」授業づくりを進めていこうという方針を確認しました。そこで、まずは、ノートというものについて少し考えてみましょう。

私の尊敬する新居信正先生（元徳島の小学校教師）は、常々、

ノートとは、ノーミソを映し出す鏡である

とおっしゃっておられました。私はこの言葉をいつも心の中において子どもたちと接してきました。

分かっていたつもりでも、いざ書こうとすると筆（タイピング）が進まないことは、われわれ教師にも良くあることです。また、書きながら考えが生まれてくることも何度も経験しました。そんなわけで、「書く」という行為は、目に見えない「自分のノーミソ」の中を映し出すことができる素晴らしい動作なのです。

ノートとは…について、他の方たちの意見をあげてみましょう。

○学習帳としてのノートは、いわば学習活動の磁場とも言うべき求心的な統合体(野地潤家)

○ノートは思考の作戦基地である(有田和正)

○ノートは思考・判断・発言の参謀本部(池野正晴)

○ノートは思考の足跡である(片上宗二)

○ノートは知的生産のツールである(吉田高志)

以上はいずれも『授業研究 21・09年 05月号』より拾い出した言葉である。自分なりにストンと腑に落ちる言葉を心に留めておくことも、あながち無駄ではあるまい。